

中神田遺跡発掘調査概要

—大阪府寝屋川市所在—

1998. 3

大阪府教育委員会



はしがき

寝屋川市御幸西町に所在する中神田遺跡は、河内平野低地部の微高地上に立地する古墳時代と鎌倉・室町時代の遺跡であります。本遺跡の北には弥生時代に始まる高柳遺跡、神田東後遺跡などがあり、古墳墳時代以降、平安・鎌倉時代と集落が発展しています。

中神田遺跡は、1990年4月、府営寝屋川御幸西住宅の建替え工事に伴い、本府教育委員会の試掘調査で発見された遺跡です。その後、寝屋川市教育委員会によって、1993年度に第1次調査、1996年度に第2次調査が実施されています。

このたび第3期府営住宅の建替え工事に先立ち、本府土木部は用地の北半部に調節池を地下に築造することになりました。

本府教育委員会では、調節池築造工事に伴う試掘調査では遺構・遺物等は発見できませんでしたが、放流用埋設管発進坑の発掘調査を実施しましたところ、平安・鎌倉時代の溝と畦、古墳時代以降の土壤等古代の人々の生活の跡を検出することが出来ました。小面積の調査ではありましたが、これらの資料は中神田遺跡を考える際に貴重な資料を提供することと思われます。

調査に際して、ご協力いただいた多くの関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護行政にご理解、ご協力をお願いする次第であります。

平成10年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野一美

例　　言

1. 本書は御幸西調節池築造工事に伴う中神田遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は大阪府土木部の依頼を受けて大阪府教育委員会が実施した。
3. 調査は、文化財保護課技師 今村道雄を担当者として、現地の試掘調査を7月、発掘調査を11月から実施し、あわせて遺物整理・概要報告書作成にあたり平成10年3月31日に終了した。
4. 本書の使用した方位は国土座標の北を示し、標高はO.Pで示している。
5. 本書の使用した座標は、国土座標第VI系である。
6. 調査の実施にあたっては、大阪府寝屋川水系改修工営所、寝屋川市教育委員会等、多くの方々にご協力いただいた。深く感謝の意を表する。
7. 本書の執筆及び編集は今村が行なった。

本文目次

はしがき	
例言	
第1章 位置と環境	1
第2章 調査経過	3
第3章 調査成果	4
第4章 まとめ	7

挿図目次

第1図 調査地位置図	
第2図 周辺遺跡分布図	
第3図 調査区・試掘トレンチ位置図	
第4図 発進豊坑位置図	
第5図 発進豊坑 土層断面図	
第6図 発進豊坑（上）第一遺構面 （下）第二遺構面平面図	

図版目次

図版一 調査地近景 調査地全景	
図版二 機械掘削 人力掘削	
図版三 第一遺構面 第一～第二遺構面土層断面	
図版四 第二遺構面 第一～第二遺構面土層断面	
図版五 第一遺構面・第5層出土遺物 第二遺構面・第8層出土遺物	

第1章 位置と環境

中神田遺跡は、寝屋川市御幸西町（第1図）に所在する。寝屋川市域の古来の村落は、古川と寝屋川の自然堤防上に立地していた近郊農村に対し、1940年代以降、この付近一帯の低湿地の市街地化が急速に進み、人口が急増した私鉄沿線の都市である。近年は最寄りの「萱島」駅から京阪電車を利用すれば約20分で大阪市内のオフィスへ通勤できる便利さが見なおされ、古い木造アパートを取り壊し、マンションに建て替えられ需要に応じている。

河内平野は、近世まで南部が大和川、北部が淀川から、水運交通の恩恵を受け、2大河川に注ぎ込む中小の河川もまた水運のうえで大きな役割をしていた。しかし、2大河川と中小の河川の吐き出す土砂の量が多いことはこれまでの遺跡の発掘調査例からよく知られている。

本遺跡は、標高約3.4mを測る平地にあり、遺跡の西限は古川に接し、東約200mが境界になるものと考えられる。南と北の境界は府営住宅内の南北300mと推測されている。これまでの調査例（寝屋川市教委による）から古川が形成した自然堤防等の微高地（第2図）に集落が立地し、後背湿地の一部が田畠に利用されていたと考えられる。古川が形成した自然堤防の上に立地する遺跡には、北1kmに高柳遺跡や神田東後遺跡、南1kmに宮野遺跡等があり、その中でも高柳遺跡は弥生時代後期に集落が築かれた遺跡である。



第1図 調査地位置図



第2図 周辺遺跡分布図（寝屋川市史）より

第2章 調査経過

御幸西調節池は、遊水池の役目を果たしていた水田や畠の住宅地化（第3図）が進み、降雨による浸水被害が度重なってきたため、一時的に増える雨水を地下に設けた調節池に貯え、地上の被害を食い止めようと計画された施設である。住宅密集地帯では用地の確保が困難なため、府営住宅地の建替えに伴い住宅を高層化し、生じた空き地の地下を調節池に供しようと計画したものである。



第3図 調査区・試掘トレンチ位置図

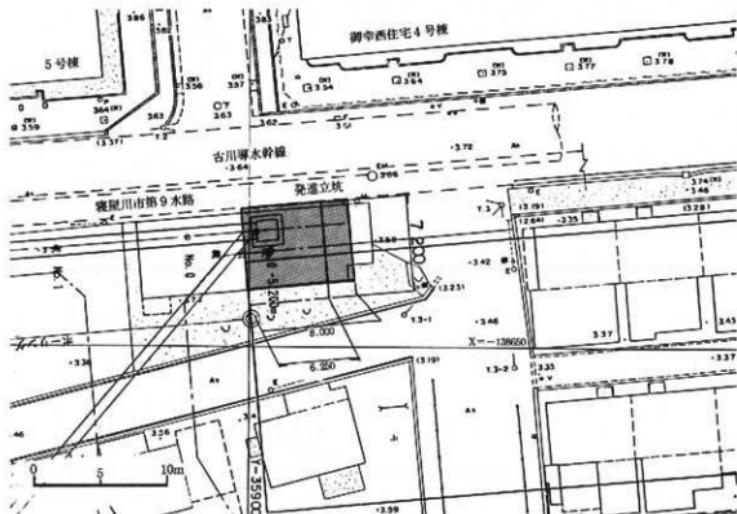
今回の2箇所の調査地のうち、先に試掘調査のみ実施した個所は調節池の予定地で、後日発掘調査した発進坑（第4図）の予定地は、東西8m、南北7m余、面積約57m²である。

第3章 調査成果

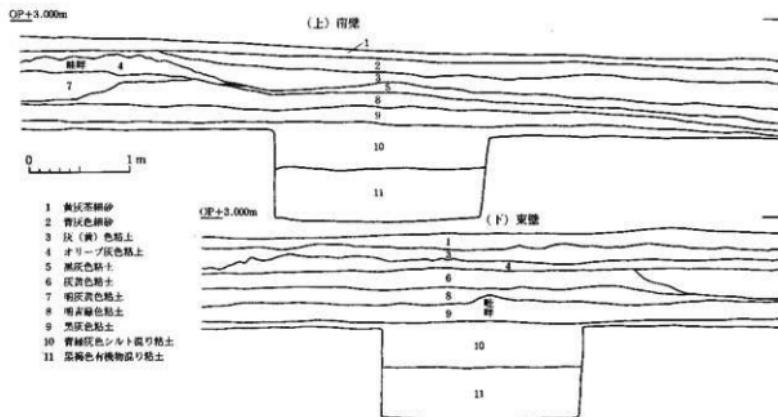
基本層序

調査地（発進坑）の土層は、盛土と旧表土約60cm余を取り除いた下の土層は第5図に示すように9層に分類できた。

第1層	黄茶色細砂	厚さ約10cm余で全域に堆積している。遺物は出土していない。
第2層	青灰色細砂	厚さ約10cm余で東側に認められた。遺物は出土していない。
第3層	灰(黄)色粘土	厚さ約10~25cm余で全域に認められ、西側は鉄・マンガンが多く沈着している。遺物は出土していない。
第4層	オリーブ灰色 粘土	厚さ10~20cmである。鉄・マンガンが多く沈着している。層の上面の粘土凹凸が激しい。遺物は土師器が出土している。
第5層	黒灰色粘土	厚さ5~15cm余で東側に堆積している。有機物（植物遺体）含む。遺物は土師器が出土している。
第6層	灰黄色粘土	厚さ15cm余である。鉄・マンガンが多く沈着している。遺物は出



第4図 発進竪坑位置図



第5図 (上) 南壁土層 (下) 東壁土層断面図

		土していない。
第7層	明灰黄色粘土	厚さ約30cm余である。以下、第6層と同じである。
第8層	明青綠色粘土	厚さ5~20cm余である。遺物は土師器が出土している。
第9層	黒灰色粘土	厚さ5~20cmである。遺物は出土していないが、前年度の市の調査では須恵器・土師器が出土している。
第10層	青綠灰色シルト 混じり粘土	厚さ約50cmである。遺物は出土していない。
第11層	黒褐色有機物 混じり粘土	厚さ約50cmである。遺物は出土していない。

遺構と遺物

第一遺面 (第6図 (上))

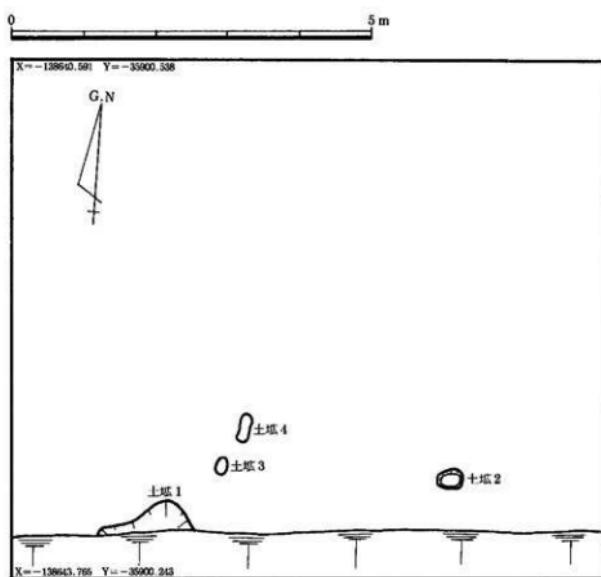
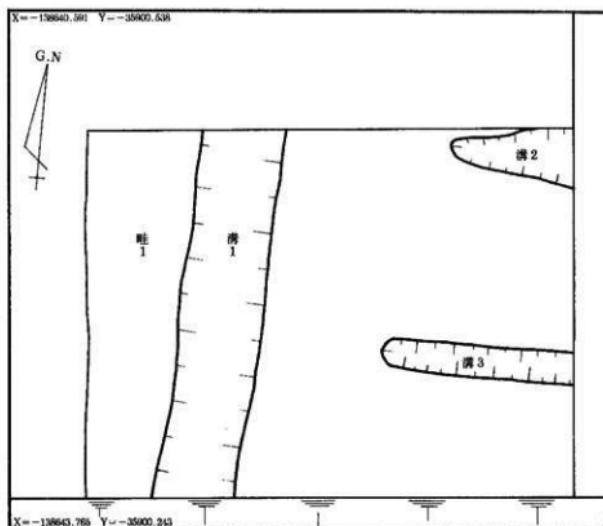
遺構は、1条の畦畔と第5層の上面に掘り込まれた3条の溝である。畦畔の上面はO.P.+2.65m、裾部はO.P.+2.35m、溝1~3はO.P.+2.30m付近にある。

溝の埋土はいずれも第3層の灰色粘土で、遺物は出土していない。

畦畔 周囲より約30~40cm高く、N-4°-Eの方向に延びる。第4層が盛土になる。畦の表面に凹凸が認められたが足跡とは判断できなかった。第6・7・8層の土層は盛土の影響を受け、溝状の窪みや土手状の盛り上がりを見せている。遺物は出土していない。

溝1 幅1.1m、深さ5~10cm、N-4°-Eの方位を示す南北方向の溝である。畦畔に平行する。

溝2 畦の東1.5mにある。幅40cm、長さ2.7m以上、深さ10cm、畦と溝1に直交する東西方向



第6図 (上) 第一遺構面 (下) 第2遺構面平面図

のみぞである。

溝3 畦の東1.5m、溝2の北1.1mにある。幅70cm、長さ1.7m以上、深さ20cm、溝1に直交する東西方向のみぞである。

第5層は東へゆるく傾斜し、畦畔据部との比高差は20cmに達する。出土遺物は図版5に示した土師器片（甕）が出土している。この土層は第一遺構面の耕作土と考えられる。

第2遺構面（第6図（下））

第9層の黒灰色粘土を掘り下げ、第10層上面から大小4基の土壙を検出した。

遺物は、遺構からは出土していないが、上の第8層の下、第9層上面からは図版5の下のような土器片が出土している。1点の須恵器（中段、左）を除き、他は土師器片である。

土壙1は、1.2×0.4m、深さ15cm、プランは不定形である。

土壙2は、35×25cm、深さ12cm、プランは不定形である。

土壙3・4は、18×20数cm、深さ数cm、プランは不定形である。

いずれの遺構からも遺物は出土していない。

なお第9層の上面に盛り上がる小さな高まり（第5図下）は、畦畔と考えられる。

第4章　まとめ

今回の調査は、面積が狭かったため第1・2遺構面の一部しか知り得なかつたが、わずか数cm隔てただけで土層の厚さや遺構の構成に大きな違いがあることが判明した。

河内平野低地部では、數10cmの微高地が集落の成立に大きな影響をもたらすことが知られているが、本調査においてもその傾向を知ることができたのは大きな収穫である。

調査に際しては、寝屋川市教育委員会の塩山則之・濱田延充両氏から現場で有意義な援助を得、整理作業に際しては北村美紀、浅井綱江、河本直子、古下佳代子氏の協力を得たことを記します。

報告書抄録

ふりがな	なかかみだいせきはくつちょうさがいよう						
書名	中神田遺跡発掘調査概要						
副書名							
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	今村道雄						
編集機関	大阪府教育委員会						
所在地	〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL06(941)0351 内3493・4						
発行年月日	西暦 1998年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °°'	東經 °°'	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
なかかみだい 中神田遺跡	寝屋川市 御幸西町	27215	34° 44' 58"	135° 36' 28"	平成10年7月 ～ 同年11月	堅坑57m ² 試掘65m ²	流域調節 池築造及び埋設管 発進堅坑
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
中神田遺跡	集落 水田	古墳時代 平安時代	畦 溝	土壤	須恵器 土師器		

図 版



調査地近景



調査地全景



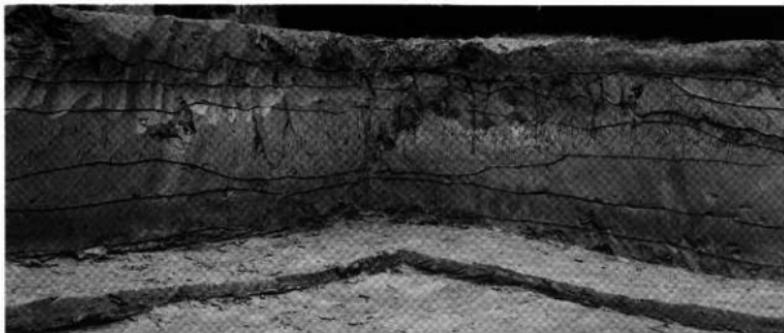
機械掘削



人力掘削



第1遺構構面



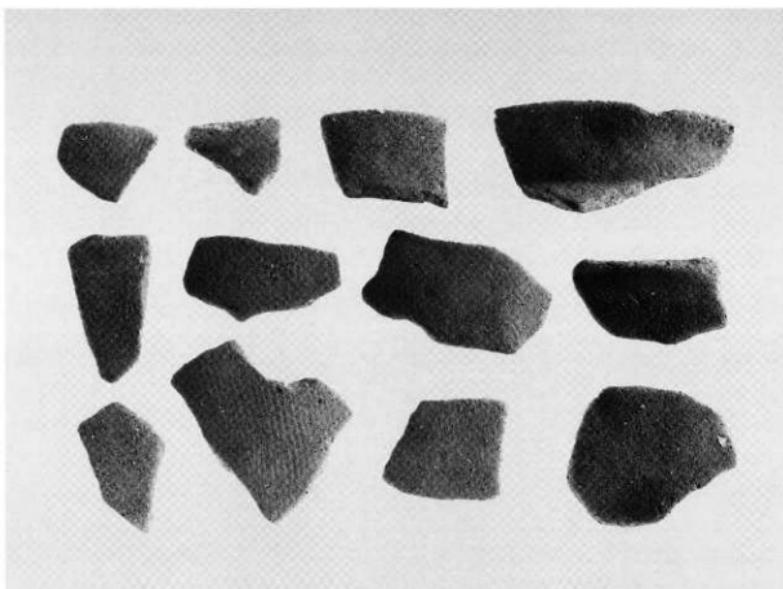
第1～第2遺構面土層断面



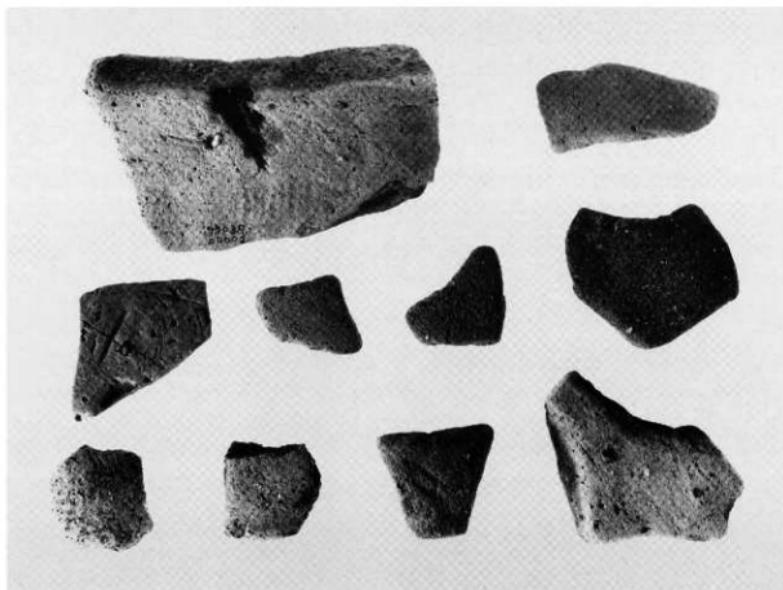
第2連構面



第2連構面



第1遺構面・第4、5層出土遺物



第2遺構面・第8層出土遺物

